

Point Of View

女性の活躍と人口から見た婚活事情 両生類時代に向けて



中西 理翔

ダイバシティの観点からも女性の活躍が期待される。「活躍」を「活用」と言えば公的な会議に言い直しが起こる。いまは矛盾だらけ、準備不足だらけ。だけど政府が決めたこと。これからは、ある意味しつかりとした女性登用のスパルタ教育システムの整備が必要である。

女性の活躍の場は確実に拡大している。ICTの分野でも男女比で言えば数少ないが、女性で優秀な経営者やエンジニアも存在する。

ダイバシティの観点からも女性の活躍が期待される。「活躍」を「活用」と言えば公的な会議に言い直しが起こる。突ること自体まだまだ日本の女性には高いガラスの天井がある証だ。政府の指針は2020年には、「指導的地位に女性が占める割合に關して、少なくとも30%程度を目指し、一般企業が役員で登用」とある。これはかなり高いハードルだと皆気がついている。

実は、社会的にも職場でもばりばりと活躍したい女性がたくさんいるとの仮説

を10年前に立てた私の推測の検証結果は散々だった。ある思いと社会貢献から「結婚相談所」の本部に入会し婚活カウンセラになった。働き続け、家庭も持ち、子どもも産みましようという「3輪車運動」は、私自身が身近なロールモデルになり婚活を応援するというビジネスモデル。考えに考え抜いた。

成婚率を高くするため、ビジュアル磨きに感度の悪い男性のためには、デートの際にはスタイルリストやネイルをセットできる提携プランも他社とのコラボで提供したが、当時、婚活中の男性の見栄えアップ系需要は大阪にはなかった。成婚とは、お互いに結婚を誓い、婚約するまでの行為であり、その時点でお互いの

相談所を退会する。また35歳—40歳アップの女性会員のプライドの高さ、希望する男性の収入、わが振り返らずの自分勝手に閉口もしたし、真剣に、つまり心から彼女たちのために嫌われてもいいと思いついた。

「若く見える。それは若いとは違うの。40歳で結婚して子どもを持ち、その子が成人したとき、あなたは何歳？」と。白馬に乗ったイケメンの王子さまは夢の世界の人。実はこのタイプの男性は早婚だ。理由は学生時代から感度の高い女性が狙いをつけている。相談所を運営して、おもしろい発見があった。50歳を超えた男性でも子どもを希望することだ。「自分によく似た顔の子どもを見たい」と

いう男性。いま「三輪車」の選択肢をカバーする社会インフラの整備が遅れている。また、関西に多く存在する「仕事は結婚したら辞めたい女子」。その後は家庭の支障がない程度の仕事をしたいという願望を持つたりする。政府の指針との乖離をどう埋めるのか。女性の登用には必要なことがある。学校の成績だけでは大手企業では役員になれない。コミュニケーション能力やITリテラシ、国際的な対応能力、クラブのママのような素晴らしい気配り。そして決断力。経営能力。つまり両生類でないと駄目だと思おう。30%に入りたいと思う女性経営者候補の教育インフラが必須である。実際、両生類系の女性は結構存在する。

いまは矛盾だらけ、準備不足だらけ。だけど政府が決めたこと。これからは、ある意味しつかりとした女性登用のスパルタ教育システムの整備が必要である。いばらの道は始まったばかりだ。

なかにし・りか 一般社団法人女性と地域活性推進機構理事(WAO)。OLから大阪・船場の女将へ転身後、IT関連事業を生業にするアル・コネクションプロダクツを設立。同社は今年で設立21期目。